

銚子市総合計画審議会（第5回） 会議概要

- 1 日 時 平成31年1月25日（金）13:30～15:20
- 2 場 所 銚子市勤労コミュニティセンター 2階ホール
- 3 出席者

○委員 16名出席

| | | | | | |
|----------|---|----------|---|----------|---|
| 関谷 昇 委員 | 出 | 柏熊 聖子 委員 | 出 | 木村 栄宏 委員 | 出 |
| 高木 益伸 委員 | 出 | 河崎 利洋 委員 | 出 | 佐藤 直子 委員 | 出 |
| 吉川 リアン委員 | 欠 | 野口 光男 委員 | 出 | 石上 藤吾 委員 | 出 |
| 辻 勝美 委員 | 出 | 宮内 勝雄 委員 | 出 | 宮内 利明 委員 | 出 |
| 宮崎 光子 委員 | 欠 | 野平 泰彦 委員 | 出 | 伊東 好雄 委員 | 出 |
| 大野 慶周 委員 | 出 | 石毛 克典 委員 | 出 | 飯塚 禎司 委員 | 出 |

○銚子市

越川市長、島田副市長、石川教育長

安藤秘書広報課長、山口総務課長、宮内市民課長、長尾税務課長、石田社会福祉課長、越川子育て支援課長、伊藤高齢者福祉課長、石井健康づくり課長、
笹本観光商工課長、宮内水産課長補佐、飯島農産課長、椎名都市整備課長、
山口生活環境課長、菅澤消防長、野口水道局長、北村学校教育課長、柴社会教育課長
宮澤企画財政課長、信太銚子創生室長、飯森企画室長、垣沼主査、大坂主任主事

4 会議内容

(1) 開会

(2) 市長挨拶

○越川市長

- ・総合計画審議会は、本日が最終回となる。総合計画案について、本日答申をいただいた後、3月市議会に上程する予定となっている。
- ・12月に町内連協主催の講演会があり、立川市大山自治会の佐藤良子前会長からお話を伺った。1,600世帯、4,000人が住むこの大山団地では町内会の加入率が100%で、「ゆりかごから墓場まで」「遠くの親戚より近くの他人」をモットーとし、行政に頼らない住民自治を徹底し、24時間対応の住民相談窓口を開設しているとのこと。話の中で「つながり合える場を意識的に作り出していくことの重要性」が強調されていた。
- ・今回の銚子市の総合計画も大きなテーマは市民自治。行政ができることが物理的に限られてきている中で、市民の力、市民と行政との協働の力を活用し、様々な力をつなぎ合わせながら、まちづくりを進めていきたいと考え、計画にも市民、行政、

協働の役割を盛り込んでいったところである。

- ・ 本日は、前回までの審議会を経て修正した計画案を提示する。忌憚のない意見をいただきたい。

(3) 議題 銚子市総合計画(案)について

● 関谷会長

- ・ 委員の皆さまの意見などを踏まえて修正を施し、計画書の原案を作成した。内容について事務局から説明をお願いする。

○ 事務局

※事務局からパブリックコメントの実施結果、前回提示以降の主な修正箇所を説明。

● 関谷会長

- ・ 本日は最終回なので、全委員から計画原案や今後の推進体制などに関するご意見をいただきたいと考えている。まず、事前に質問をお寄せいただいた高木委員から発言をお願いする。

◆ 高木委員

- ・ 計画書の3ページに計画の期間についての記載があり「基本計画は計画期間の中間年である5年後を目途に必要なに応じて改定する」となっている。しかし今回は、銚子市緊急財政対策を策定した後の総合計画であり、それぞれの施策の展開について実効性が懸念される中で5年は長いと考える。毎年、あるいは2年に一度程度、施策の展開状況に応じて改定作業が必要ではないか。

○ 事務局

- ・ 「財政の裏付けが不透明な中で実効性が担保できるか」という委員のご指摘はそのとおりだが、計画書に記載しているように毎年度策定する実施計画で各種事業の費用対効果や財源などを見極めたうえで、事業実施の可否を判断していく予定。その中で、基本計画については、5年を待たずに見直す必要があれば改訂していきたい。

◆ 高木委員

- ・ 柔軟に対応していただきたい。
- ・ 子育て分野に関してだが、計画書には「市民と行政がこの分野でどのような取組を行っていくか、その重要性は極めて高く、その結果によって市の将来が左右されるといっても過言ではない」と記載されてある。これだけ強い書きぶりであるにもかかわらず、取組の内容がありふれているように感じる。本当に10年後の出生率1.23を念頭に置いた施策なのかと考えてしまう。

○越川市長

- ・ご指摘のとおり子育て施策の重要性は高い。市の財政の問題から十分とはいえない部分があるかもしれないが、そうした状況の中で最大限の取組を行っていきたいと考えている。

●関谷会長

- ・次に、同様に事前に質問をお寄せいただいた宮内勝雄委員から発言をお願いします。

◆宮内（勝）委員

- ・計画書の中に「市民ができること」が記載されているが、誰がどのように取り組んでいくのか、具体的なところが書かれていない。そうした仕組みができていないと、計画が実行されていくのか、疑問が残るがいかがか。

○事務局

- ・総合計画は、市が進むべき今後 10 年間のまちづくりの方向性を示す指針として策定するもの。誰がどのように実行するのかという具体的な事項までは盛り込まれていないのはご指摘のとおりであるが、計画の策定に当たっては、市民ワークショップでの様々な意見、各課室とのヒアリングシートなどを基に策定している。
- ・計画本体は紙面の都合もあり、個別具体的な記載内容となっていないが、計画の推進に当たっては、これらのバックデータに基づき、関係部署においてしっかりと取り組めるよう体制を整えていきたい。

◆大野委員

- ・銚子市の存在を他の地域の人々にしっかりと認識してもらうために、費用がかからない手法でアピールしていくことをしっかりと考えていくべき。
- ・計画書の案はよくできていると思う。医師会としてもやるべきことはたくさんあると考えており、計画に記載のとおり実施していけるかが重要である。

◆木村委員

- ・本日提示された計画書案は見やすく読みやすいもので、良い成果品ができたと思う。ただいくつか気づいた点を指摘させていただく。
- ・今回の総合計画のキーワードの1つは、市民との「協働」である。38 ページの図表が基本構想の全体像だと思うが、この中に「協働」というフレーズを入れ込むことができないか。
- ・161 ページに、前回の総合計画である「ルネッサンス 2025」期間中の市政運営についての記載がある。以前の審議会で、前回計画の評価についてのコメントを載せるべきとの意見を申し上げたが、その点はどうなっているか。
- ・また、64 ページの大学との連携分野での千葉科学大学に関する記載で、表現が若干異なる部分がある。正確には「人に優しく安心して住める地域創り」なので修正してほしい。

○事務局

- ・総合計画の都市ビジョンが「握手～つながるまちづくりのちから」であり、図表の中にある「つながる」が「協働」を表すフレーズ。この図表で基本構想全体を表現できていると考えている。
- ・「前回計画に関する評価を」という意見があったことは承知している。前回計画に盛り込んだ施策については、濃淡はあるものの大半が取り組めており、限られた紙面の中では1つ1つの評価を掲載することは物理的に難しいため、「この期間の振り返り」ということで、市政運営についてまとめたものを掲載した。
- ・千葉科学大学の記載については、修正させていただく。

◆野口委員

- ・今回の計画は10年という長期にわたるもので、作った後実行できるかが重要であり、しっかりと検証していく必要がある。
- ・計画書の中に統計データが出てくるが、新たなデータが発表された時点で、年次の改訂ができればと思う。何らかの形で開示してほしい。
- ・760万円ほどの費用をかけて作成していることをしっかりと認識し、有効に活用される努力をすべきである。要約版の作成のほか、ホームページによる情報開示など、市民にしっかりと周知していただきたい。

○事務局

- ・市として検証作業はしっかりと行っていく。全体を統括する計画であるため、行政評価の手法に近い形になろうかと思うが、効果的、効率的な検証作業ができるよう、関係部署と内容を詰めていく予定。
- ・計画書のダイジェスト版については、20ページ程度のものを作成する。現在準備中であり、3月末までに皆さまに配布する予定である。

◆石上委員

- ・野口委員の発言にあった統計データについてだが、計画書の中の統計データのみを抜き出した資料を巻末に入れてはどうか。

○事務局

- ・別冊の参考資料としてまとめる方向で検討したい。

◆佐藤委員

- ・今回の総合計画は、103項目の事業の縮小・廃止を提示した「緊急財政対策」の後に発表されるもの。10年後のまちの姿を示すものではあるが、市民に不安感が強いことは事実である。したがって方向性だけでなく、その内容を具体化していくところまで示していく必要があると考える。

- ・そうした中で「つながる」ことが重要であり、またつながるためには「情報の共有化」が必要である。計画の進捗に関して、今後1年毎の具体的な数値を示してほしい。また財政がひっ迫しているなかで、「ここまでは大丈夫だ」ということを示してほしい。

○越川市長

- ・市民とのコミュニケーション、やり取りが重要だと考えている。市民、行政、協働によるまちづくりを進めていくうえでも、現在ある「分断状況」を克服していく必要がある。コミュニケーションが大事だということを肝に銘じていく。
- ・財政に関しては「税金を使うべき事業は何か」ということを常に意識していきたい。

◆野平委員

- ・先日発表された「緊急財政対策」は、基本的に財政を絞っていくことがメインのものだったが、本計画には稼いでいこうという面も盛り込まれており、良い内容だと考える。現時点で、どのような団体と協働し、どのような分野を優先的に取り組もうと考えているのか。

○越川市長

- ・80ページに記載しているエネルギー関連産業の振興に特に注力していく。洋上風力発電施設の誘致は、将来的に財政面での効果、雇用面での効果が期待できる。地域新電力会社による再生エネルギーの地産地消を進めることにより、収益の地域への還元が期待できる。

◆野平委員

- ・現状まだ取りかかっているが、今後やっていきたいことがあればお聞きしたい。

○越川市長

- ・先ほどお話ししたエネルギーに関する施策はこれから進めていくもの。その他の分野でも、時代の流れを常に見ながら検討していきたい。

◆柏熊委員

- ・計画書の中で「市民と行政との協働」をうたっているが、推進していくうえで誰が先頭になってやっていくのか。

○越川市長

- ・市民が主体となってやること、行政が仕掛けをつくっていくこと、様々な場合がある。誰がリーダーシップをとるかはケースバイケースで、取組ごとにより効果的な手法をとっていければと考える。

◆柏熊委員

- ・市民は「市が主導して、こういう団体に働きかけていく」という具体的な内容を聞きたいはずである。

◆野平委員

- ・旗振り役が誰なのかわからないと、市民は「そこに参加しよう」と考えづらい。基本計画に基づく実施計画が見えてこない、先に進まないように感じる。

○越川市長

- ・実施計画を作り上げていく中で、誰が旗振り役になるべきかも含め検討させていただく。

●関谷会長

- ・計画を実施する上での主体・体制が明確でないという意見に関してだが、本来は総合計画策定時に誰がやるかを明確に記載することが望ましいのだろうが、現実的には策定時に固めることは難しく、計画を進めながら体制も整えていくことになる。担ってくれる人が出てくるか、誘うことができるかが問われてくる。
- ・連携についても、すでにできているもの、まだこれからのもの、いろいろな段階のものがある。具体的な動きの中で、個々をみていくことになる。
- ・各種情報の管理など、評価に必要な情報をトータルで管理していく体制を整えていく必要がある。
- ・個人的な意見だが、まずは市が、市民の意見を引き出すための「作業部会」をつくる必要があると考える。37 ページにある図表の中の「行政によるつながりづくり」に該当する取組である。
- ・このほか、市民の活動を促進するためにも、総合計画の周知は重要である。

◆木村委員

- ・2019年度の実施計画がスタートする4月まであと2か月しかない。実施計画の作成状況はどうなっているのか聞きたい。

○事務局

- ・来年度の実施計画策定作業は、今回の総合計画策定作業と並行して、昨年10月から行っている。

●関谷会長

- ・ポイントは総合計画のフレームの中に実施計画がきちんと位置づけられているかということ。
- ・今回の計画の特徴は市民、行政、協働という3つの主体ごとの役割をあえて区分していることであり、様々な力を引き出して課題解決を進めていくことが求められている。個々の施策・事業を従来どおりのやり方ではなくどう進めていくかを、改め

て位置づけ直していく必要がある。

- ・また、それぞれの分野の施策について、行政のどの部署とどの部署が連携しながら取り組んでいくかも良く考えていくべきである。

◆野口委員

- ・これまでの審議会での指摘により、37 ページの図表の行政の取組として「行政がやるべきことを『主体的』に実践」と修正してもらった。この「主体的」という3文字は重いものである。市が率先して動いていってほしい。

●関谷会長

- ・計画書の中で、行政の役割として「民間にできないことを補完する」という表現を用いている。「補完」というと「受身」のように感じられてしまうかもしれないが、ここでいう「補完」は「行政ありきではない」という意味。何をやるか、どのような働きかけをやっていくかは、当然行政の重要な役割である。

◆佐藤委員

- ・行政が旗振り役をすれば市民、民間は動きやすいはずである。各課ができることを精査して行って、主体的に旗振り役を行ってほしい。
- ・情報に関しては、間違いなく行政に集まりやすいはず。情報の共有化は行政が主体となって進めてほしい。

◆柏熊委員

- ・情報の共有化は重要である。今回答申から議決を経て正式に総合計画となっていくのだろうが、これを一人ひとりの市民にどのように伝えていく予定か。

○事務局

- ・広報紙、ホームページなど各種媒体を通しての周知はもちろんだが、計画の趣旨を市民に理解していただくには直接的な説明も必要だと考えている。市民の側に出向いて説明したいと考えているので、何か話があればぜひご紹介いただきたい。

◆伊東委員

- ・ホームページは見ることができる人が限られている。市民などがこの冊子を欲しいといった場合に入手することは可能か。

○事務局

- ・ホームページからダウンロードすることは可能とするが、冊子での受領を希望される場合は、有償頒布することを検討していきたい。

◆河崎委員

- ・基本計画は全体的に「推進する」「支援する」という表現にとどまっており、「誰がどうする」という具体的なところまで書かれていない。それが掲載される実施計画が重要であろう。
- ・個々の施策や事業を計画通りに進めていくためには、1年毎の評価、見直しを行っていく必要があると感じる。

○事務局

- ・今後とりまとめる実施計画で、各部署と協議しながら具体的な取組について一つひとつ検討していきたい。

◆佐藤委員

- ・私の専門は介護分野で、介護分野では3年単位の計画を策定している。各分野でも3年程度の期間の計画を策定しているのか。

○事務局

- ・160 ページに分野別に個別計画の一覧表を掲載している。各分野では、この計画に基づいて施策・事業を展開している。

◆佐藤委員

- ・今後、今回の総合計画の内容を個々の計画に反映させていくということか。

○事務局

- ・ご指摘のとおりである。今後各分野で策定していく個別計画は、総合計画との整合性を図り、その考え方を踏まえたものとなる。

●関谷会長

- ・総合計画は市の最上位計画。市の計画の中で最も重視されるべき計画であり、今後の各個別計画はこれを反映させたものとして策定される。

◆辻委員

- ・財政状況が厳しい中で、優先順位をつけていくことが求められる。この点についてどう考えているのか。

○宮澤企画財政課長

- ・計画に記載されていることすべてをきちんと計画期間どおりにできるかは懸念事項であるが、財源を考慮しながら優先順位をつけて取組を行っていきたいと考えている。

◆宮内（利）委員

- ・総合計画は市民に周知させることが難しい。市民一人ひとりにうまく伝わるよう配慮をしていただきたい。
- ・本審議会には市内の主な団体の代表がメンバーとして揃っている。まずこれらの団体・企業への働きかけから進めていけばよいと考える。

◆石毛委員

- ・まちづくり活動では、各団体間の連携を図ることが難しいと思われる。実際にPTAや相談員などの活動は、それぞれがやるべき業務しか行っておらず、行政と連携した取組ができているとは言えない。
- ・個々の団体は、毎年代表者が変更になることが多く、継続性が十分とはいえない。継続して関わることができるアドバイザー的な立場の人がいないと、連携体制が維持できないのではないかと。市にはそうした仕組みを検討してもらいたい。

○事務局

- ・市でも中間支援団体の活用など検討しているものの、具体的な着地点までには至っていない。皆さまのご協力をいただきながら、今後もしっかりと考えていきたい。

◆木村委員

- ・昨年度に数度にわたり開催した市民ワークショップは、市民の意見を聞く場という意味で非常に良い取組だった。今後も継続して開催していただきたい。

○事務局

- ・今年度は日程の関係で開催できなかったが、来年度以降は実施していきたい。

(4) 答申

●関谷会長

- ・計画案に対する答申に移りたい。答申案は計画書の158ページに掲載してある。この案は、これまでの審議会での意見などを踏まえて、各委員の皆さまと書面で協議を重ね、取りまとめたものである。

※関谷会長から答申書の10項目の内容について説明があり、その後、答申書が越川市長へ手渡される。

○越川市長

- ・委員の皆さまには、5回にわたる審議会において充実した議論を展開していただいた。お礼を申し上げる。
- ・総合計画策定の過程で、今回初めてワークショップを行い市民の意見を聞きながら進めていった。また、市民、行政、両者の協働という3つの主体別の役割も明記させていただいた。何よりも大事なことは「市民と一緒にまちづくりを進めてい

くこと」だと考えている。

- ・皆さまから意見をいただいたように、計画は作っただけでは意味がない。これを市民にしっかりと周知し、様々な力を引き出して、実行に結び付けていくことが重要である。市としても市民とのコミュニケーションを図りながら、垣根をなくして、実際にやることを実施計画でしっかりと具体化していく予定である。
- ・皆さまには引き続きご協力、アドバイスをいただければと考えている。今後とも市政運営にご協力いただきたい。

(5) 閉会

※事務局より、本日の答申を受けて細部の見直しを行ったうえで、この総合計画案を3月の市議会本会議に議案上程し、可決後に冊子及びダイジェスト版を委員に配付する予定であることを説明。

以 上